

原著

## 看護のアイデンティティー、その4：看護職に重要な社会生活パターン についての大学生と看護師の価値観の相違とその意味

工藤 二郎\* 小田 日出子\* 窪田 恵子\*\* 中馬 成子\*\*

### 〈要約〉

看護職のアイデンティティーを明確にして看護学生を教育することは看護大学の重要な課題である。学生教育に役立てるため、我々はこれまでに看護のアイデンティティーに関するキーワードのうち、看護職の資質と個人的行動の2範疇のキーワードについて看護師と学生の価値観の差について検討した。この第4の報告で、我々は看護のアイデンティティーに関する第3範疇、看護職に重要な社会生活上の36キーワードについて、学生と看護師の価値観の差について報告する。

相違を比較するのは入学経緯や教育環境が類似である本学1年生と卒業生の看護師の2集団である。学生と看護師の回答に基づき、彼女らが最も大事と考える概念に10点を与え、2番目に大事と考える概念に9点を与え、順次点数を下げていくという操作を行い、1番から36番の各キーワードの得点を看護師と学生の2種類にデータベース化した。各キーワードの得点を看護師と学生の母数でそれぞれ除してこれを平均社会指数と名付けた。さらに、学生から看護師に変化したときの価値観の変化を明白にするため、「看護師社会指数」の「学生社会指数」に対する比を求めた。この操作により、看護師になることにより重要性が高まるものとして、緊張感を持つ、他職種との連携、返事する、相手の人格尊重、穏やかな口調、自己紹介する、などの語句が抽出された。責任を持つ、他職種との連携、相手の人格尊重、約束を守る、の各キーワードは看護師での得点が高くかつ学生との価値観の差も大きかった。一方、学生は、感情をコントロールする、心くばり、に看護師よりも高い評価を与えていた。

看護師がことに高い点を与えた、責任を持つ、他職種との連携、相手の人格尊重、心くばり、信頼感を築く、約束を守る、の6項目は看護教育の方法やカリキュラムに反映させるに適切な項目と考えられた。

キーワード：アイデンティティー、看護教育、看護大学生、社会生活、カリキュラム

はじめに

看護職の総体を論理的方法によって明確にとらえ、看護教育の理念と方法をその根拠の上に見出すことは看護大学にとって重要な課題である。我々は当初、看護職が教育と臨床の現場でどう理解されているかを明確にすることからこの研究を開始した。大学で学習している学生、また、臨床の場で活動している若い看護師の各集団が鋭い問題意識を持つと考えたからである。第1報により、我々は看護に関する152キーワードを選択し、5範疇に分類して学生の論文中の出現頻度を検討した<sup>1)</sup>。次に、質問表を作成し本学看護学生と本学卒業の看護師に各キーワードの重要度を回答してもらった。これにより、5範疇の各キーワードについて学生

と看護師の価値観の差を検討できることになった。回答にもとづき、第2報では看護婦としての資質の22キーワードについて学生と看護婦の価値観の差を検討し<sup>2)</sup>。さらに第3報では看護師としての個人的行動パターンの26キーワードについて学生と看護婦の価値観の差を検討した<sup>3)</sup>。

本研究のようにキーワードを操作しながら看護の現実近づき、それを教育に役立てようとする研究はなされていない。しかし、注目すべきものとして、波多野と小野寺<sup>4)</sup>は看護師の職業的社会的化を知る目的で、6つの範疇に含まれる25項目の質問表をつくり、看護短大の学生228人と同卒業生442人にアンケートを求めて看護職へのアイデンティティーを測定した。また河津と任<sup>5)</sup>は、看護教育目標検討の資料とする目的で、独自

\* 西南女学院大学保健福祉学部 看護学科 教授

\*\* 西南女学院大学保健福祉学部 看護学科 助教授

に選択した34項目の語句を一般人、医師、看護師、看護教師のグループに対して各語句の重要度を質問した。得られた191の回答は4段階に配点され、34項目が5因子に分けられて各グループでの5因子の重要度のパターンが明らかにされた。これらの研究は、キーワードかまたは短い語句、質問表などを操作して重要性を検討するという方法を用いており、きわめて興味深い。

我々の研究は上記の各研究とは目的と方法が異なっている。すなわち、本学の看護学生と本学卒業の看護師という関連の強い2集団を対象とし、この2つの集団間の変化を比較し、本学の学生の教育に役立てようとしている。

この第4の報告では、抽出された152キーワードのうち看護師としての社会生活の範疇に属する36語句について、看護学生と臨床経験が1年を越えている看護師の価値観の差についての解析結果を報告する。

方法

キーワードの抽出は看護学科1年生と編入生の書いたレポートより行った。彼女達が医療概論の受講後、課したレポートの題は「医療や養護を担う看護師、保健師、養護教諭として心がけるマナーにはどのようなものがありますか。また、それはなぜ必要と思いますか。」であった。レポートの提出は76で、看護師として

書かれたレポートは71であり、5人が養護教諭として書かれていた。当初のキーワード抽出は看護師として書かれた71レポートより行った。これらのレポートより抽出した152キーワードは、1) 個人的資質、2) 看護職に望まれる態度・行動、または個人的な行動パターン、3) 他者と良い関係を築く上で必要な態度・行動、または社会的な行動パターン、4) 専門的な看護技術、5) 専門倫理的な態度・行動、または職業倫理の5つに区分けされた<sup>1)</sup>。今回の報告でも区分と属するキーワードは全く変えていない。

今回の分析はこの分類の第3範疇、他者と良い関係を築くうえで必要な態度・行動、または社会的な行動パターン、の36キーワードについて行った。アンケートは本学の卒後1年目の看護師59名、卒後2年目の看護師58名、卒後3年目の看護師63名に送られ、また、本学入学後4ヶ月目の看護学科1年生99名にも依頼した。

表1はアンケートの第3カテゴリーの部分と段階的な配点数を示している。すなわち学生や看護師が最も大事と考える概念に10点を与え、2番目に大事と考える概念に9点を与え、順次点数を下げていくという操作である。ここで、このカテゴリーをより簡潔に表わし、さらに以前の報告と明確に区別するため、このカテゴリーに「社会生活」という略名をつけた。

1番から36番の各キーワードの得点を看護師または

表1 アンケートの社会生活項目の部分と配点法

C. 社会生活

- 1) 心くばり 2) 心をこめる 3) 約束を守る 4) 言葉遣い(敬語丁寧語) 5) 相手の人格尊重 6) 礼儀 7) 相手を理解共感する
- 8) 協力して仕事する 9) 感情のコントロール 10) 信頼感をきずく 11) 責任を持つ 12) 組織の一員の自覚 13) 職場での良き人間関係 14) 挨拶する 15) 返事する 16) 緊張感を持つ 17) 自己紹介 18) こそこそ話をしない 19) 周囲状況の正しい判断
- 20) 臨機応変に対処する 21) 話をよく聞く 22) 冷静 23) スタッフと目を合わせ連絡 24) 声や語調を落ち着かす 25) 不明点に質問する 26) 穏やかな口調 27) 迷惑をかけない 28) 声をかける 29) 指示は復唱する 30) うわさ話をしない 31) 親切な行為
- 32) 時間を守る 33) 記録報告の速さ正確さ 34) 先輩への尊敬 35) 公私のけじめをつける 36) 他職種との連携

B. の枠内のキーワードは、他者との良い関係を築く上で必要な態度・行動と言えそうなものです。あなたが看護職を行って、最も重要に思えるものから順に番号を記入してください。

点10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

この範疇に適当と思われる他の言葉を思いつかれたら下の四角内に入れ、重要さの順番を書いて下さい。

Table1: A Part of Questionnaire and Allotments to Selected Key Word

NOTE. The most important key word was allotted 10 points, the second was 9 points and so on. Every point of each key word was processed in two databases for nurses and students, respectively.

学生の2種類にデータベース化した。このアンケートの集計を本学の看護学科1年学生の集団と臨床経験が1年を越えた看護師、すなわち2年目ないし3年目の看護師集団について比較検討した。まず学生集団での各キーワードの平均得点と、看護師集団の各キーワードの平均得点を比較しグラフ化した。これらには「社会指数」と略名をつけた。さらに、学生と看護師で変化が大きいものを画像で表した。これらの操作には表計算と画像処理のコンピューター・ソフトを用いた。

## 結果

### 1) アンケート回答数と新たなキーワードの収集

1年を超えて看護経験のある看護師、すなわち2年目または3年目の看護師による回答は36通であった。就職1年目の看護師からの回答は30通あったが、看護経験がまだ4カ月目であったため今回の結果には含まなかった。この回答は、将来、学生から看護師への過渡期の分析に有用と考えている。一方、本学看護学科1年生からの回答は22通であった。

行動の項目に適切と考える新たなキーワードを記載した看護師は1人で、「挨拶」の第3位であったが、すでにキーワードの14番にあるため、そのように処理した。一方、新たなキーワードを記載した学生は無かった。

### 2) 36キーワードの学生と看護師からの得点と平均値

1番から36番の各キーワードの得点はデータベース化されて集計された。その途中の過程の例を示す(表2)。この表はデータベースよりキーワード20番を抽出し、得点を見たものである。看護師番号の最初の数字が2の者は2年目の看護師を示し、3の者は3年目の看護師を示す。20番のキーワードは「臨機応変に対処する」である。表の次の列は各看護師の配点で、1点から9点まで分布している。キーワードは36個あり、表の看護師11人以外は20番を選ばなかった所以他们は抽出されない。以下の列は総得点の62と総点62を全看護師回答数の36で除して平均した値の1.722であり、「看護師社会指数」としている。学生にも同様の操作を行って各キーワードの「学生社会指数」を求めた。看護師と学生の各キーワードの社会指数をグラフ化したものを示す(図1)。図を見ると11,36,5,1,10,3,4,7,のキーワードは看護師による配点が高い。これらは、責任を持つ、他職種との連携、相手の人格尊重、心くばり、信頼感を築く、約束を守る、言葉遣い(敬語丁寧語)、相手を理解共感する、に各々相当する。

一方、1,11,4,10,7,6番のキーワードは学生の配点が高く、これらは、心くばり、責任を持つ、言葉遣い(敬語丁寧語)、信頼感を築く、相手を理解共感する、礼儀、であった。高得点の部分は共に似通っている。

### 3) 看護師の社会指数と学生の社会指数の比較

次に、各キーワードの「看護師行動指数」を「学生行動指数」で除した値を求めた。ここで、この値が無限大となるものが2つあった。すなわち、学生は27番の迷惑をかけない、と31番の親切な行為に得点をあたえなかったのである。ところが、看護師の方も27番の指数が0.25、31番の指数が0.278で極端に低かった。これらは、看護師と学生共に重要度が低いと解釈し、このグラフには含めなかった。

この計算により、学生から看護師になった後の価値観の変化が想像できる。その結果を図2に示す。縦軸は[看護師社会指数] / [学生社会指数]で横軸はキーワード番号である。これをみると、変化が大きい順に、16,36,15,5,26,17,12,3番となり、それぞれ緊張感を持つ、他職種との連携、返事する、相手の人格尊重、穏やかな口調、自己紹介、組織の一員の自覚、約束を守るであった。反対に学生において価値が高かったものは、値がゼロであるものがある。すなわち看護師が全く選ばなかった、こそこそ話をしない、スタッフと目を合わせ連絡する、の2つである。しかし、これらも学生の指数が0.32と0.18と極端に低く重要なものとは考えられない。ところが、9番の感情をコントロールする、は学生社会指数が2.27と高く、看護師の0.31との価値観の差が極めて大きかった。

### 4) 得点が高くかつ価値観の差が大きいキーワード

価値の変化の大きいものが必ずしも重要なキーワードとは限らない。その理由は、[看護師社会指数] / [学生社会指数]の比率は高くても看護師と学生の配点が共に低い場合もあるからである。そこで各値の組みで散布図を描き、看護師と学生の配点が目に見えるようにした。図3はその散布図で、縦軸が看護師社会指数、横軸が学生社会指数、ななめに引いた直線は[看護師社会指数] = [学生社会指数]の線である。この直線より上の点は学生に比べ看護師がより重要と考えるキーワードを示し、下の点は看護師に比べ学生がより重要と考えるキーワードを示す。また[看護師社会指数] = [学生社会指数]の線から離れるほど看護師と学生の価値観の差が大きいものとなる。これを見ると、配点が高くかつ価値観の差が大きいものは、11番の責任を

持つ、36番の他職種との連携、5番相手の人格尊重の、3番の約束を守るであった。16番、15番は変化が大きいものの、看護師での平均指数が、それぞれ1.11、0.81と低い得点であり散布図では左の最下部に位置し

た。この2項目は学生での得点が極めて低かったのである。図で明らかなように、9の、感情をコントロールする、は補助線からの変位が最も大きく、ほかに1の、心くばり、も学生において価値が高いことがわかった。

表2. データベースから抽出されたキーワード20のコンピューター画面

看護師番号	項目番号	得点	総得点	看護師社会指数
2002	20	7	62	1.722
2004	20	7		
2006	20	1		
2013	20	8		
3001	20	3		
3003	20	9		
3004	20	8		
3005	20	3		
3008	20	6		
3013	20	8		
3017	20	2		

Table2: A Search Result for 20th Key Word from Nurses' Data Base

NOTE. The first column is identification number of nurses who experienced for 2 or 3 years. The 20 in second column is a key word number which indicates "to take a flexible approach". The 3rd column is points obtained by 20th key word which distribute from 1 to 9 in accord with estimation by each nurse. The 62 in 4th column is the total sum of points obtained by the 20th key word. The fifth column is the mean value of the key word.

図1. 看護師と学生それぞれで36個のキーワードが得た平均行動指数

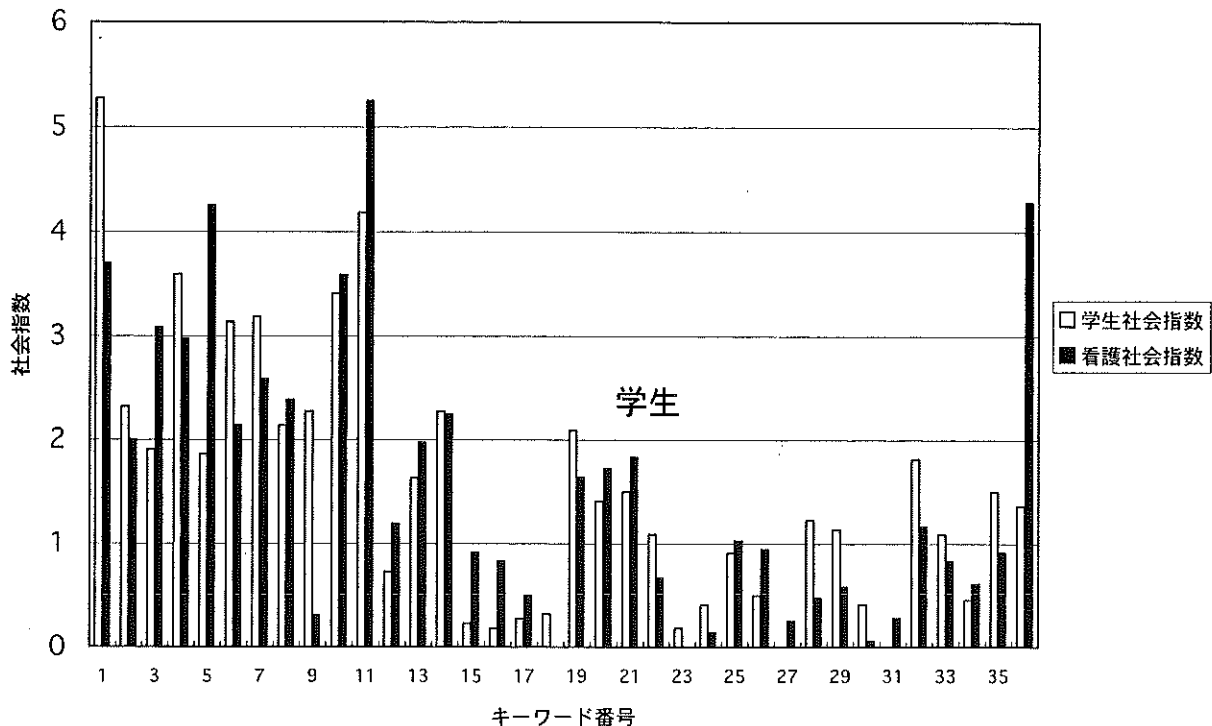


Figure1: Comparison of the student's mean social life index (□) with nurse's mean social life index (■) of each 36 key words.

NOTE. Total sum of points obtained by each key word among nurse group or student group was divided by total number of nurses and students, respectively, which termed social life index. The 11th, 36th, 5th, 1st, and 10th key words had high value among nurses. These are "to assume the responsibility", "to cooperate with others", "to respect others' personality", "to give consideration to others", and "to construct a sense of trust", respectively.

図2. 各キーワードの [看護師指数] / [学生指数]

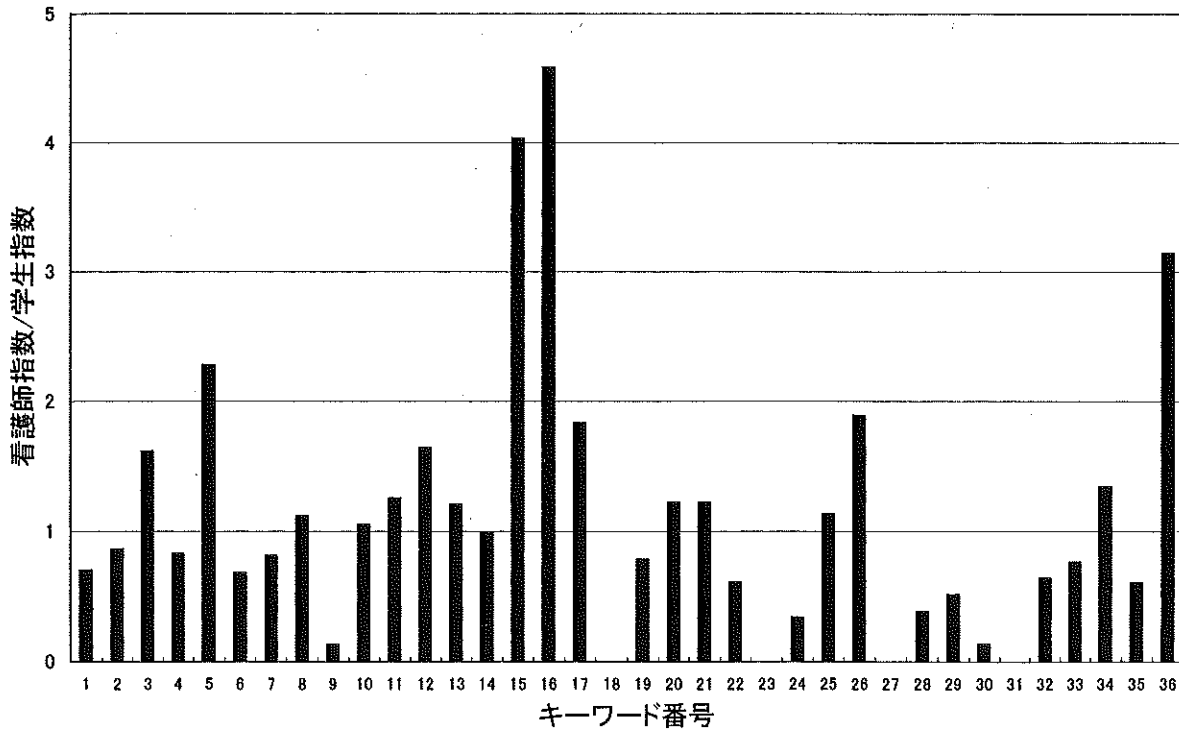


Figure2: [nurse's social life index] / [student's social life index] ratio of each 36 key word.

NOTE. This shows the changes of estimation for the social life by students and nurses. The 16th, 15th, 36th, 5th, 26th and 17th key words had highly evaluated by nurses in comparison with the students. These are "to keep a sense of tension", "to cooperate with others", "to reply", "to respect others' personality", "to speak in cordial tone", and "to give a self-introduction", in this order.

図3. 社会指数の看護師と学生の散布図  
ななめに引いた直線は [看護師社会指数] = [学生社会指数] の線。

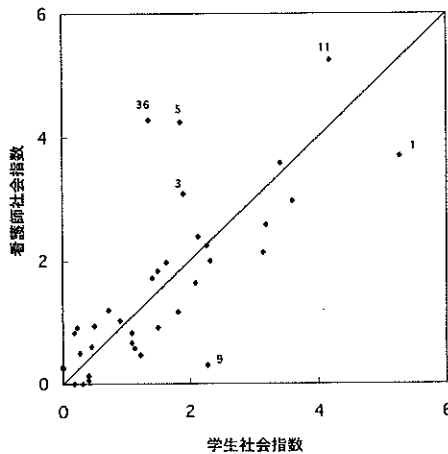


Figure3: Relationship of the estimation of the social life between nurses and student displayed in scattered pattern.

NOTE. The line in the figure indicates [nurse's social life index] = [student's social life index]. The 11th, 36th, 5th, and 3rd key words had higher value among nurses than among students. These 4 key words obtained relatively high score both from nurses and students. These are "to assume the responsibility", "to cooperate with others", "to respect others' personality", and "to keep one's promises", respectively. On the contrary, "to

表3. アンケートの社会生活の部で得られた全てのデータ

キーワード番号	内容	学生社会指数	看護社会指数	社会変化指数
1	心くばり	5.27	3.69	0.70
2	心をこめる	2.32	2.00	0.86
3	約束を守る	1.91	3.08	1.62
4	言葉遣い(敬語丁寧語)	3.59	2.97	0.83
5	相手の人格尊重	1.86	4.25	2.28
6	礼儀	3.14	2.14	0.68
7	相手を理解共感する	3.18	2.58	0.81
8	協力して仕事する	2.14	2.39	1.12
9	感情コントロール	2.27	0.31	0.13
10	信頼感をきずく	3.41	3.58	1.05
11	責任を持つ	4.18	5.25	1.26
12	組織の一員の自覚	0.73	1.19	1.64
13	職場での良き人間関係	1.64	1.97	1.21
14	挨拶する	2.27	2.25	0.99
15	返事する	0.23	0.92	4.03
16	緊張感を持つ	0.18	0.83	4.58
17	自己紹介	0.27	0.50	1.83
18	こそこそ話をしない	0.32	0.00	0.00
19	周囲状況の正しい判断	2.09	1.64	0.78
20	臨機応変に対処する	1.41	1.72	1.22
21	話をよく聞く	1.50	1.83	1.22
22	冷静	1.09	0.67	0.61
23	スタッフと目を合わせ連絡	0.18	0.00	0.00
24	声や語調を落ち着かす	0.41	0.14	0.34
25	不明点の質問する	0.91	1.03	1.13
26	穏やかな口調	0.50	0.94	1.89
27	迷惑をかけない	0.00	0.25	#DIV/0!
28	声をかける	1.23	0.47	0.38
29	指示は復唱する	1.14	0.58	0.51
30	うわさ話をしない	0.41	0.06	0.14
31	親切な行為	0.00	0.28	#DIV/0!
32	時間を守る	1.82	1.17	0.64
33	記録報告の速さ正確さ	1.09	0.83	0.76
34	先輩への尊敬	0.45	0.61	1.34
35	公私のけじめをつける	1.50	0.92	0.61
36	他職種との連携	1.36	4.28	3.14

Table3: All of The Data Obtained from Questionnaire to Students and Nurses

NOTE. The first column is the number of the key words, second column is the indicated concept, the 3rd is the student's social life index, 4th is the nurse's social life index, the 5th column is the ratio of the indexes.

## 考察

初回の報告<sup>1)</sup>では学生の71レポートでの各キーワードの出現頻度をみた。レポート中で出現頻度の多かった社会生活項目は、信頼感を築く、言葉遣い(敬語丁寧語)話を良く聞く、挨拶する、相手を理解共感するであった。これらに相当する今回の学生の指数は、それぞれ3.41、3.59、1.50、2.27、3.18と高値であり、「話を良く聞く」の中程度の値以外はほとんど並行する。したがって、この計数法によって、レポート中での言葉の出現頻度を見るという煩雑な方法で得られるものと殆ど類似の結果を得たことになる。おそらく、今回得られた看護師の価値観も正しく数値化されているのではないかと想像され、高い値を得たキーワードは今後の研究のまさに「真性のキーワード」となる可能性を持っている。

「看護師社会指数」と「学生社会指数」の散布図からわかることは、看護師を2から3年経験すると、責任を持つ、他職種との連携を重視する、相手の人格尊重、約束を守る、などが重視されてくることである。これらは学生でもそれぞれ高い得点であり、学生に重要性は理解されているものの価値観の差は大きい。これらは大学教育の中で強調され、その方法が教育されるべきであろう。

学生の重視した、感情をコントロールする、心くばり、の2項目はどう解釈されるであろうか。おそらく、看護師たちは看護の現場でこれらを気にする必要なく、業務を遂行できているのではないだろうか。他にもっと優先すべき価値観を見出したということになるのである。

看護師、学生の回答を検討すると、データは学生や看護師個人の看護プロファイリング(輪郭同定)となっている。その「かたち」は各個人の経験、環境、そして目標を表わしているように見える。そして各個人の価値観の総和が看護のアイデンティティを形成し、看護の特殊性を表現しているように思われる。この研究で選択されつつあるこのような看護の表現語は、他大学の学生や他大学出身の看護師にも同様に重要であるものなのか、興味のあるところである。

以上、社会生活のカテゴリーに分類された項目について、看護学生と看護師の相違とその意味について報告した。次回の報告は専門的な看護技術に関する言語の分析となる予定である。

## 謝辞

この研究は、2000年度西南女学院大学共同研究費「西南女学院大学保健福祉学部看護学科卒業生の実態調査」の助成の一部を受け始められた。

## 文献

- 1) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子：看護のアイデンティティ：看護大学生は看護職をどのようにとらえているか。西南女学院大学紀要。5:1-8, 2001
- 2) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティ、その2：看護の資質についての大学生から看護婦への価値観の変容とその意味。西南女学院大学紀要。6:10-17, 2002
- 3) 工藤二郎、小田日出子、窪田恵子、中馬成子：看護のアイデンティティ、その3：看護の行動パターンについての大学生から看護婦への価値観の相違とその意味。西南女学院大学紀要。7:19-26, 2003
- 4) 多野梗子、小野寺杜紀：看護学生および看護婦の職業的アイデンティティの変化。日本看護研究学会雑誌。16(4):21-28, 1993
- 5) 河津芳子、任和子：看護婦に求められる資質：一般人、医師、看護婦、看護教師への意識調査をふまえて。日本看護医療学会雑誌。2:9-15, 2000

## Identity of Nursing, 4th Report: Implications for the different estimation of the social life pattern for nursing between students and nurses.

Jiro Kudo, Hideko Oda, Keiko Kubota, Nariko Chuman

### < Abstract >

It is an important assignment for the Japanese nursing colleges to establish the identity of nursing based on which students are taught. We previously showed the difference of estimation on 2 categories which were endowments and personal behavior concerning identity of nursing between university students and nurses for the purpose of nursing education. In this fourth report, we show the difference of the estimation between university students in nursing course and nurses of 36 key words in the third category which is social life relating the nursing profession.

We have made comparison between nurses graduated from our university and students in nursing course of the 1st grade.

The most important key word they selected was allotted 10 points, the second was 9 points and so on, then every point of each key word was processed in two data bases for nurses and students, respectively. Total number of nurses and students divided total sum of the points obtained by each key word among nurse group or student group, respectively, which termed mean social life index. To show the difference of estimation between students and nurses, the ratio of [ nurse's social life index ] / [ student's social life index ] of each 36 key word was calculated. The key words which had higher value among nurses than students were "to keep a sense of tension", "to cooperate with others", "to reply", "to respect others' personality", "to speak in cordial tone", and "to give a self-introduction", in this order.

Four key words obtained relatively high score both from nurses and students and much higher score from nurses. These are "to assume the responsibility", "to cooperate with others", "to respect others' personality", and "to keep one's promises", respectively. Two words which were "to control one's feelings" and "alertness" obtained higher score from students than from nurses.

The 5 key words highly evaluated by nurses, "to assume the responsibility", "to cooperate with others", "to respect others' personality", "to give consideration to others", "to construct a sense of trust", and "to keep one's promise" were considered to be important for making curriculum of the university students.

keywords: identity, nursing education, university students in nursing course,  
social life, curriculum